

クウェート投資庁、エジプトとモロッコに集中投資

クウェート投資庁 10月16日(ロイター) - クウェート投資庁(KIA)は16日、最近の世界的な金融危機による株価暴落を絶好の買い場ととらえ、政府系ファンド(SWF) 経由でガルフ地域と北アフリカへの更なる投資拡大を検討中であるとコメントした。

同庁の **General Reserves Fund** 担当のエクゼクティブ・ディレクターBader al-Ajeel氏は、ガルフと北アフリカ市場への投資の準備は既に完了しており、今後ファンドまたは直接投資など様々な形態で投資を実行すると付け加えた。

セクター的には同地域のハイテク、通信、サービスセクターに投資妙味があるとし、債券市場に関しては今回の投資対象から除外したと示唆。

また同氏は、「巨額の投資資金を吸収できるだけの市場であるエジプトやモロッコなどの大国に集中投資する。今回の世界的な金融危機が起こる前から同市場を高く評価しており、またそれらの投資は2009年から行う」と言及した。

「我々は、来たるべきステージに備えて、アラブ諸国の中で投資を強化する必要がある。エジプトとモロッコは、まさに我々が長い間注目して来た投資先である」とも示唆した。

クウェート投資庁は同国の **Future Generations Fund** 及び海外投資ファンドなど約1840億ドルの資産を運用している。2007年3月に発表された最新の公式データによると **General Reserves Fund** の運用額は約400億ドルである。